

まけるな

校長 武井 正明

見事合格した皆さん、おめでとうございます。これまでの努力が報われましたね。これからもまだまだ山あり谷あり。人生すべてプラスです。夢と希望を抱いて高校生活を満喫してほしい。今夜はお祝いかな。

44年前の3月中旬…。いまだ脳裏に刻印されている。  
発表は午後2時。午前が長かった。私は友人とバスで向かった。  
着くと既に正門前は、喧騒に包まれていた。  
すっと歩いて掲示板に向かうと、すぐに自分の番号がないのがわかった。  
直前までであると、根拠もなく信じていた294番が…なかった。涙は出なかった。

そこからは、ぼんやりした記憶しかない。  
白山駅まで歩いた。駅前で座っていると、知らないおじさんがニコニコしながら話しかけてきた。こっちの気も知らないで…大人は気楽でいいよな。  
越後線に乗り関屋駅を過ぎると、布団屋のひらがなの看板の文字が、一瞬目に入った。  
合格したグループは、車中で賑やかに春休みの話題だ。落ちた人達は、普段それほど仲良くなかった者同士の距離が、急に近くなる。虚ろな眼で、会話にならない会話で寺尾駅に着いた。この先、俺はどうなるのだろう、徐々に不安が押し寄せる…。

結果報告に駅から学校に向かう際、野球部がいるグラウンド脇を通った。  
二個下の弟もいた。後輩の一人が「先輩、合格ですか？」と訊いてきた。私は「落ちた一つ」と無理に明るく返した。その後も練習を続けなければいけなかった弟は、居たたまれなかっただろう。今考えても、本当に切ない思いをさせた。  
その時の話は、大人になっても、お互いしたことがない。優しい弟だ。そして、愚かな兄だった。

精一杯虚勢を張って帰宅しようとした時、他クラス担任で体育石津先生の「武井！まけるなよ！」が背中越しに聞こえてきた。体育など受験に関係ないと、後半はサボって見学ばかりしていた自分だったのに…。先生の温かい言葉が、心に沁みた。

今、暗闇にいるあなた。  
絶対この悔しさを忘れるな。  
ここから這い上がってみろ。ここからが本当の勝負だ。君なら絶対できる。  
必死に頑張れ。そして、次の一步を踏み出せた時、校長室に顔を見せてほしい。  
俺は君と同じ経験をして、それを乗り越えた人生の先輩だ。  
だいじょうぶ。私はここで、いつでもあなたの笑顔を待っている。